

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう東館 第2ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番57号		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療との連携を図りながら安全で安定した体調を継続できるよう、又、少しでも楽しさやハリを感じながら心地よい生活が送れるよう努めている。</p>
---------------------------------------------------------------------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有する事で地域の一市民として過ごせるよう日々意識し実行に移っている。案内を受け、町内会の敬老会参加、中学校の文化祭参加、雪明り雪像づくりに協力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居前からの馴染みの町内のスーパーや時計店への買い物、ヤクルト販売の利用、又、毎年、町内のお祭りでは、子供神輿や獅子舞に来てもらっている。夏祭りや避難訓練には事前に近隣にお伝えし参加して頂いている。今年も町内会の敬老会に参加できた方もいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の体験学習を受け入れている。運営推進委員会等では、事業所の取り組みや、認知症の方への支援を説明する。又、避難訓練、夏祭りに地域住民の参加で認知症の方への理解や支援の実際の周知につなげている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の定期開催で、行事報告、ヒヤリハット、事故報告を行い、意見を頂いた時は参考にさせてもらっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新時の資料の件や高額サービス利用を受けるにあたっての区分の確認等も含め、疑問や不明な点はそのままにせず、随時電話等で御教示頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年3月にも「身体拘束ゼロへの手引き」を確認しながら日ごろより周知徹底している。やむを得ない拘束もなく、工夫しながら拘束につながらないケアの実践を常に心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1月、「施設事業所における高齢者虐待防止」研修参加、3月、「施設授業者による虐待なのか判断に迷った事例」の勉強会、8月、「岐阜県での事件」を元に虐待が起きる事のないよう、又、きつくなる声掛けに及び不適切と思われるケアは職員間でお互い声掛けしながら注意していくよう担当委員を中心に定期的にミーティング時に話し合いが行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人職員も入社した事から、平成27年6月のミーティング時に勉強した「小樽・北しりべし成年後見センターの資料」と同様だが、今年9月、再度、勉強会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、質問等には答えている。細かな変更等も事務所からの書面、電話、来訪時やお便り等でお知らせしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望は申し送りや支援経過に記載し、入居者様からの要望等も申し送りし、個人記録や日報に記載し、職員間で情報を共有している。直接言わずらい事項も外部評価時のご家族のアンケートでも記載して頂けるようになっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にカンファレンスやミーティング時に意見を出し合い、管理者やケアマネージャーは職員の意見を把握している。管理者やケアマネは職員が意見を出しやすいよう配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の能力や個性を把握しながら、又、勤務状況をも鑑みながらスキルアップや向上心に繋がるよう研修会参加や役職への促しに努めている。役職は手当に反映されている。資格取得の為の勤務の調整などで希望に添えるよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に研修案内を提示し研修参加を促している。職員一人一人の力量を見極めながら、スキルアップできるよう研修、資格取得の誘導をしている。ミーティングで研修報告する事で内容の確認と周知を行っている。今年からは、初任者研及び介護福祉実務研修の学士を奨学金として貸与する制度を導入した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2度、グループホーム協議会交流会に参加している。外部研修会や勉強会のグループワーク等でネットワークづくりにつなげている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報提供や面談時のコミュニケーション等に十分注意を払いアセスメントを共有しながら、入居に際し、少しでも不安を軽減できるよう寄り添ったケアを心がけている。又、入居後の様子をアセスメントしながら、居心地の良い生活環境が提供できるよう話し合いながら努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からも色々な情報を頂き、面会時や電話等でこまめに様子を報告しながら信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時に話を聞きながらアセスメントし、入居時に必要とする支援のケアプランを作成し、ご家族やご本人にも要望等の確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	戦争に参加した高齢の方のお話や、他の方々からもその方の生い立ちで参考にさせてもらっている事も多い。又、できる事を見極めながら、お手伝い等で協力をお願いしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信及び来訪時の近況報告、体調不良時の受診時等の電話報告等で、大まかな生活様子を把握して頂けるよう努めている。キーパーソンがお孫様でも衣類の補充購入、不穏時の電話での対応等で協力も頂いている。又、「そろそろ髪が・・・」とか、「本人のいいようにしてあげて下さい」等のコメントを頂く場合もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に行っていた親戚の美容室、かかりつけ病院、馴染みのスーパー等、外出同行している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性の強い方同士の衝突を避ける為に間に入ったり、席替えをしたり、利用者様が安心できる空間を作れるようにしている。又、リビングでのレクや会話、合同イベント時は他のユニットの方と一緒に楽しめるよう間を取り持っている。ピンゴゲームやもやしの芽取り等、助け合いながら行っている時もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、療養型施設で亡くなられた後、ご家族全員で来訪。不動産の寄贈のお話を頂いた事もあった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中、希望や意向を把握できるよう努めている。買い物、外出、買い物代行(「乾きの早いズボンが欲しい」)等、可能な限り希望に添えるよう行っている。タブレット契約の為、自宅、銀行、役所に出かけた方もいる。入居者が喜ぶ焼き肉、寿司パーティーは隔月位のペースで実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た情報や家族との会話、コミュニケーションの中で今までの生活歴や趣味等をお追いながらアセスメントしながら声掛け誘導行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護保険更新時及び状態の変化時に「出来ること、わかること」のアセスメントをしたり、毎月のミーティング及び毎日の申し送りで状態の変化を共有している。ケアプラン作成時に一日の過ごし方を作成し居室に貼っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り時及び月に1度のカンファレンスで医師、看護師、家族の助言も参考にしながら意見やアイデアを出し合いケアを行ったり、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな変化は毎朝の申し送り及び個人記録や日報等の申し送りに記載し情報の共有し、支援の方法を検討しながら実践し、状態を見ながらケアプランの見直しもしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的、馴染みの美容室、買い物外出等を行っているが、タブレットが欲しいとの要望で、手続きに必要な箇所へ外出同行したり、時計の電池交換、必要となった衣類や靴を選んでもらいながらの外出等、柔軟に支援を行うように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練での協力を頂いたり、地域のイベントの参加、散歩時の挨拶で顔見知りになる事で少しでも安全で心豊かで安心な暮らしへの支援とつながっている。又、美容室外出では利用中の見守りや終了後に連絡を頂く等の協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの係りつけ医への通院、必要に応じて適切な医療機関へ受診できるよう、ご家族と相談しながら対応している。通院時は職員が同行し、診察内容を把握し医療との連携に努めている。通院に身体的負担の係る方はご家族と相談し、訪問診療及び往診で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、朝の申し送り時に報告相談している。又、変化があった場合は都度連絡し処置及び受診等の助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は近況の健康チェック表、アセスメントやADL等、入院に至るまでの異変を病院に情報提供している。入院後は週1度位の面会や電話等で状態を把握しながら、出来るだけ早期に退院できるよう情報をもらいながら努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の説明をしているが、都度、状態に合わせてご家族に確認をしている。数名の方の看取りも行った。身体状況を見ながら、終末期が予測される方は、主治医・ご家族との話し合い必要に応じ、「終末期の支援」についても勉強会も行い、資料も職員が直ぐ確認できる所の保管してある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の予定でAEDの使用法や救命救急訓練を消防の方から指導を受けている。又、「高齢者の急変時対応セミナー」「救急車依頼シート」等、マニュアルが職員の見やすいところに掲げられている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	年2回、消防署の指導の元、近隣の方々にも見学して頂きながら避難訓練を行っている。昨年9月又、今年は6月末(地震による火災発生)には夜間を想定した訓練も行われた。その際、消防署の職員から救急救命訓練とAEDの使用法も指導も受けている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体介護の多い方も多く、全体的に声掛けてからのケアに足りない事も多く、定期的に注意事項として話し合いながら改善に努めている。又、人格の尊重にも注意は払うよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の個々の嗜好品や要望をできるだけ把握し、選択・自己決定しやすいよう支援している。例えば、ヤクルト販売時に要望を聞き購入してもらったり、スーパーでの買い物時は自分で選んで購入している。又、意思表示が難しい方が多いが、答えやすい質問の仕方を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介助が必要な方が多くなり、朝、夕の食事は少し早いペースで職員の都合を優先させている時間帯もあるが、体調不良や状況に合わせて入居者様のペースに合わせた声掛け支援もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分のこだわりで同じ衣類を着る方には好みの服と一緒に買いに行っている。ご自分で身なりを気にかけるような方が少なくなったが、ご家族にも協力を頂きながら、特に通院時や外出時はきれいな洋服で出かけて頂くよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	その方の能力に応じて、盛り付け、米とぎ、食器拭き、もやしの芽取り、野菜の皮むき、食器拭き等、一緒に準備や片付けが行える様、声掛けを行っている。少しでも食べる楽しみをもってもらえる様、公園での昼食会もおにぎり等をつくる手伝いをしてもらったり、焼き肉、寿司パーティを開催したり、代理購入等で好きな嗜好品を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の食事量や水分量を記録し、栄養・水分量の適量摂取の支援をしている。シリンジ使用しての方々もおり、他に状態を見ながら介助して食べて頂いている。栄養が不足と思われる場合には主治医と相談の上、栄養補助食品やプリンや菓子パン等嗜好品の代理購入、その方に合わせた時間で栄養や水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には毎食後の口腔ケアの声掛け、介助の方は義歯を外して口腔ケア、又、義歯の無い方はマウスウォッシュでうがいや口腔内専用のティッシュ等でふき取るなどの介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、その方のそぶりで声掛け同行している。立位保持が可能な限り、トイレで排泄できるよう対応しているが、自力歩行が困難になってきている方は本人の要望もありPTイレを使用している方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状態を確認し、個々の排泄リズムに応じ看護師と相談しながら下剤の調整、座薬対応、洗腸処置で便秘による体調不良を未然に支援している。尿カテーテル設置の方の管理及び医療連携も行われている。毎日、昼食時はヨーグルトを提供		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様からの要望はないが、入浴拒否を拒否をされた時は間をあけたり、声掛けのPを変えてみたり、日を変えたり等しながら週2回の入浴及び清拭の確保している。又、毎日、陰部の清拭(自立者はタオルを渡す)対応。入浴中はできるだけコミュニケーションを図るようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、眠そうな方や体調に影響する方は居室で休んで頂いたり、リビングのソファで横になって頂くが、夜間に影響しない様、見計らいながら行っている。又、夜間、どうしても眠れない方等はリビングで少し過ごしてもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつでも確認できる場所に置き、一人一人の薬の用法、効能等を理解するようにしている。特に薬の変更時は申し送りで慎重に服薬介助するよう努めている。必要に応じ(薬の形態、頓服対応等)、病院、薬局に相談しながら指導を頂く時もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に配慮しながら役割分担を行い、自室のモップ掛け、新聞たたみ、縫物、仏壇の花の水替え、食器拭き、盛り付け、もやしの芽取り、洗濯物たたみ等の手伝いをお願いしている。自分の好きな食べ物の買い物も支援している。イベント時は好みのビールなどを嗜めるよう、提供している。天気を見て日向ぼっこや散歩を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ、要望される事はないが、季節の良い時は、できるだけお花見やドライブ、散歩、個別にスーパーでの買い物、通院、美容室外出等、屋外での活動を誘導している。マイカルでの衣類の購入、ドコモショップ、市役所、自宅、ご家族とお盆外出等に出かけた方もいた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している金額を気にされ、通院や美容室の支払いを心配される方には説明し安心してもらう。手持ちのお金が少なくなった方にスーパーでの支払いを自分で行う事の継続の為、小遣いの補充を支援する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	少しでも寂しさが軽減できるよう、積極的にご家族との電話の橋渡しをしている。又、手紙やハガキが来た時は御本人に確認の上、読んであげている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるような壁飾りを作りながら、ユニットが明るい雰囲気であるよう心掛けている。窓際にはご家族から頂いた花を飾り、入居者様がお水をあげることもある。又、窓からは日本海を眺めたり、朝日や車のライトで心地よさを感じて頂けていると思われる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で自由にテレビを見たり、リビングで他者と談話をしたり思い通りに過ごされている。リビングの窓際ソファで寛がれている方もいる。食卓の席もできるだけ気の合う方がたを配慮しながら決めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできるだけ自宅で使用されていた家具やご家族やペットの写真等、馴染みの品々をご持参いただくようお願いしている。仏壇にご飯や水を供え、お参りされている方、好きなスターのポスターを飾られている方、過去の思い出になる芸能人との写真を飾られている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるよう張り紙をしたり、転倒防止の為、ベッド柵や布団に鈴をつけて、音で直ぐに訪室できるよう工夫している。着替えや入浴時は出来るだけ自分で行ってもらよう見極めながら介助している。「できること」「わかる事」のアセスメントを行いながら少しでも自立支援を心がけるようにしたいと思っています。		